

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171000252		
法人名	有限会社 ももえん		
事業所名	グループホーム ももえん		
所在地	佐賀県佐賀市川副町小々森1260-1		
自己評価作成日	平成29年 3月19日	評価結果市町村受理日	平成29年8月9日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人 佐賀県社会福祉士会
所在地	佐賀県佐賀市八戸溝一丁目15番3号
訪問調査日	平成29年4月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム南側には田畑が広がりそこから季節感を感じることができる。小規模多機能ホームと併設しており行き来は自由にできるので、小規模多機能ホームの利用者様と一緒にレクリエーションをしたり声を掛け合ったり交流もある。「笑顔でその人らしく生き生きと」「持つて力をフル活用」「自由に自ら生きていく」を理念とし利用者様一人ひとりに応じた丁寧な介護ができるように職員は常に努力している。入居者様の状態が重度化し続けているなかで、穏やかに過ごしてもらえるよう取り組み、主治医・歯科医・訪問看護・薬剤師・訪問マッサージ等他職種との連携も大切にしている。又御家族様とのかかわりにも努めており、毎月個別でのお便りを出したり家族会や運営推進会議で意見交換を行い信頼関係づくりに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは田園地帯に位置し、リビングから農作物の成長を通して四季を味わうことができる。併設の事業所とは常時交流があり、行事食の餅つきや、おはぎ作りに入居者も参加し、買い物や散歩に同行するなど入居者の持つて力を活かす取り組みをしている。また、家族へは、入居者一人ひとりを中心としたおたよりを送付し、ホームや入居者の状況を伝えている。医療機関等との連携は、協力医、かかりつけ医、訪問看護師、薬剤師、歯科医、訪問マッサージ士など相互の連携がよく取られ、緊急時の対応はもとより、快適な生活を送るための、ベッドの選択、誤嚥防止、できるだけ口から食べる工夫、看取りの取組みに工夫が見られる。地域では幅広い年代との交流が見られ、日常的に訪問があり、川副ネットワークの一員として、地区の施設間協力体制に参加するなど、ネットワーク独自の災害訓練を行なっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた町でその人らしく生活が送れるようケアを行っている。又職員にも理念が把握できるように目に付きやすい場所にあげ意識付けを行っている。	理念は誰でも目につきやすい玄関に掲示している。新入職員にはオリエンテーションで説明し、業務の中で判断に迷う時、理念に立ち戻っている。理念に基づいたケアのルールを職員間で話し合って作り、共有し実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベントに参加したり、施設での行事活動に参加して頂けるように呼びかけ地域の方々とのコミュニケーションが取れるよう努めている。	ホームから地域の祭りやサロンに参加し、地域からはボランティアや保育園、幼稚園との交流、秋祭り参加の川副太鼓の小中学生、大人等幅広い年齢層との交流がある。近所の人が日常的にふらりと立ち寄り様々な相談をしている。今回代表者が女性消防団員として加入した。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	利用申し込み者、地域の方や見学者の方にアドバイスや相談を受けている。又また一人ひとりのニーズに合った紹介などが行えるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	おおむね2ヶ月に1回開催し、利用状況、活動状況、サービス提供の報告、意見交換等を行っている。でた意見には全職員にて話し合いよりよいサービスが提供できるよう努めている。	2ヶ月に1回、家族会や祭りに併せて開催し、参加しやすい工夫をしている。地域の人々からよく意見が出され、運営に活かしている。議事録はよくまとめてあり、誰でも閲覧出来るよう玄関に置いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的にサービス提供の報告を行い、問題や課題の助言や指導を受けている。	市の担当者とはいつでも連絡を取り合える体制である。ホームは川副ネットワークの一員として施設間及び行政との連携はよくとれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束の内容を理解できるよう施設内での勉強会や研修に参加し理解を深め身体拘束のないケアに取り組んでいる。また施錠は夜以外行っていない。	身体拘束について、外部の研修に参加すると共にホーム内研修を実施し、行動制限をしないようにしている。研修後の勉強会において、職員間で課題を決め具体的な事例について検討している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員が虐待防止の重要性が理解できるよう、施設内での勉強会や研修会に参加し虐待があってはならないとの意識を強め虐待がないよう日々のケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内勉強会や研修会に参加し知識習得に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には納得ができるよう十分な説明を心がけている。又施設内等も見学して頂き、十分理解納得をして頂いたうえで契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者やご家族には常に意見や要望がないかを尋ねている。また意見や要望は全職員にて話し合い反映させるように努めている。又報告は運営推進会議なかで行っている。	家族会は年3回、運営会議の後に開催している。積極的に参加を呼びかけている。毎月家族へ送付のホーム便りは、入居者1人の情報が主に掲載されており喜ばれている。寄せられた意見は運営に反映するよう努めており、報告は運営推進会議で行なっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務中や毎月の勉強会、ミーティング等にて意見交換を行い業務に反映できるように努めている。	毎月15日に勉強会を実施し、その際意見がよく出されている。通常業務の時間内でも自由に意見や要望が出され、トイレの暖房設置や必要な備品の購入がなされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勉強会や研修等に参加してもらい知識向上を図り、職員に役職をつけ給料水準をあげ職員の努力が形にできるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員による勉強会を月に1回行い、外部からの講習会等も定期的に行い知識の習得ができるように努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職場外での勉強会や研修等に参加し意見交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の思いを受け止めることができるように信頼関係の構築に努めている。又会話や表情等もよく観察し安心して話せるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申込時に意見や要望、困っている事等を聞き家族の不安を和らげ安心して頂けるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様と家族様のそれぞれの状況を踏まえ、現段階で必要なサービス又は情報を提供する等、支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様、家族様の意見を聞き職員、本人様、家族様が同じ気持ちで支援できるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様、利用者様の思いを大切に、職員、家族様、利用者様が同じ思いで支援できるように努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人様や家族様にこれまでの生活歴や習慣を十分に尋ね、本人に合わせた話や生活ができるよう努めている。	いつでも知人等の面会は可能であり、居室やその他の好みの場所で話してもらっている。状況により職員が参加する。地元の神社の初詣に出かけ、ドライブで馴染みの場所に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人一人を尊重し利用者様同士が関わる場を設けお互いが支え合えるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談時には丁寧に対応しアドバイス等行い、これまで同様の支援が行えるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様、家族様の意見を把握し一人ひとりの意見を取り入れ尊重しその人らしい生活が送れるよう努めている。	入居者や家族からの聞き取り、生活歴を参考に話し合いながら表情や仕草等から意向を汲み取り対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所前、入所後も情報収集に努め、できる限り生活環境が変わらないように努めている。又収集した情報は全職員にて共有し、ケアの統一に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の言葉、しぐさ、動き等を観察行い記録や申し送り等にて全職員が状態把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画を作成する際は、本人、家族、主治医、訪問看護師等の意見を取り入れ期間に応じて見直し又は状況に変化が生じた場合はその都度話し合いより良い計画作成に努めている。	入居者、家族、主治医、訪問看護師等の意見を聞き、介護計画を作成し、短期目標について毎日チェックを行なっている。状況に変化があった場合や目標が達成できない場合、計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の記録は利用者個別に行い全職員が情報を共有しより良い計画作成に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家庭的な雰囲気を活かしながら、本人様、家族様の意見要望を傾聴し柔軟な対応ができるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事の際は地域のボランティアに参加して頂いたり、地域の消防署や警察署に協力して頂き安心して生活ができるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望に沿ったそれぞれのかかりつけ医に見て頂き、24時間対応可能な体制を行っている。	かかりつけ医が24時間対応できる体制をとっている。協力医とかかりつけ医との医師間の連携もとれている。かかりつけ医の受診は原則家族が行うが、受診時の情報を書面で家族に持って行ってもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	契約している訪問看護ステーションに日々の状態を報告行い、適切な助言や指示を受けている。又疑問点などはその都度相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には家族様、主治医との情報交換行い状態の把握に努め早期退院できるよう努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に指針の説明を行い、本人様、家族様の意思を確認している。又重度化した際はその都度話し合いを行い本人様、家族様、主治医共に納得のいく方法でその時を迎える事ができるよう努力している。	重度化した時の指針あり。契約時に説明し、その後、主治医と家族を含め相談の機会を設け、その時が来た時、再度相談を行う。職員は勉強会で研修し、相談は24時間管理者が受けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会等を行い緊急時に備え訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防団の協力のもと定期的に避難訓練を行っている。又また町内の川副ネットワークとも連携を図り災害時の訓練や協力体制をとっている。	防災マニュアルあり。消防署協力の消防訓練の他に川副ネットワーク内の事業所間の協力体制での災害訓練を実施している。警報を地域の人々に聞こえるよう設置し、代表者が女性消防団員に志願し地域との協力体制作り動き出している。しかし、地域の方の参加はこれからである。	運営推進会議と同日に行うなど工夫して、地域の人々の参加を呼びかけ、地域における更なる協力体制の構築に期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全職員、利用者様を人生の大先輩として人格を尊重し、プライバシーを損ねない声かけを行うよう日々努めている。	接遇の研修を実施し、入居者の人格を尊重して声掛けを大切にしている。ホームには家族的なやさしい雰囲気が漂っている。入室時は必ずノックし、浴槽が2つある浴室には間にカーテンがあり、プライバシーを確保している。重要書類や記録は鍵付きの書庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	落ち着いた雰囲気づくりやケアに心がけ利用者が意思表示、自己決定できるような努めている。又意思表示がうまくできない方にはわずかな変化にも気づけるよう観察行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のマニュアルを決めず、利用者の希望やペースを優先し希望に沿った対応ができるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類の自己決定や行きつけの美容院、好みのお化粧品等を楽しんで頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の会話にて食べたいものを伺い献立に取り入れるようにしている。又準備や片付け等も一緒に行う時間も作るようにしている。	入居者の好みを聞き、毎日献立を立てている。隣接の事業所と合同で餅つき、おはぎ作りを楽しみ、誕生日はケーキ、正月・開設記念日・秋祭りは家族と食事を楽しむ。胃瘦の方や、誤嚥しやすい方は専門家の指導の下、食事を楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みや食習慣を取り入れながら、栄養のバランスや体調等を考慮し、十分な栄養と水分が摂取できるよう支援している。又個々の状態に応じ食事携帯や調理法の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人ひとりにあった方法(歯ブラシ、クルーナ、液体歯磨き)で行っている。義歯使用者には定期的の義歯洗浄も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様一人ひとりの排泄パターンの把握に努め、訴え時や定期的に声かけや誘導を行い気持ちよく排泄を行えるように努めている。	チェックシートで排泄パターンを把握し、仕草や行動で判断し、おむつ着用の人もなるべくトイレに誘導している。排泄に関する勉強会を開催し、職員もおむつ体験し、入居者に適したおむつの選択を家族と話し合っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中にココア等の食物繊維の多い物を摂取してもらったり、運動を行い排便を促す働きかけを行っている。又排便チェック表を使い排便対策も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴できる体制をとり、拒否がある場合は無理強いせずタイミングが合った時に入浴してもらっている。	併設事業所の浴室も使用し、入居者は週3回入浴だが、状況により毎日入浴できる体制である。リフト利用により安全な入浴を、ゆず湯や御屠蘇湯で季節感を楽しみ、入浴を嫌がる人にはタイミングを見計らって勧めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの体調や生活習慣にあった寝具を準備している。又睡眠や休息は本人のペースに合わせ、気持ちよく休めるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ドクター、薬剤師等と連携をとり、利用者様一人ひとりの病気や薬について勉強会を行い、全職員が把握できるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴や趣味を生活の中に取り入れ、又施設内レクリエーション等を行い持つてくる力を活用し自信や喜びを感じてもらえるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望や体調に応じ、散歩やドライブ、買い物等を行い季節ごとのイベントにも参加できるよう努めている。又家族様にも協力して頂き外出等も行っている。	天候や体調をみて、外に出て畑の収穫の様子や咲いている花を見学し、ドライブにでかけている。また、併設事業所の外出に元気な人が同行したり、外出を渋る人でも、家族に話して馴染みの店に連れていってもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現金を所持し自由に買い物ができるよう支援する体制ではあるが、現在買い物を希望する方がおられない事や、体調面や理解、管理が困難な方が殆どである。その為、家族様での管理が殆どである。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じ対応している。又電話の声が聞き取りにくかったり、手紙の文字が書けない場合には、代行するなどして支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	今の南側は一面田畑が広がっており、季節ごとの作物や収穫風景が見ることができる。ガラス戸から入ってくる自然の光が強い場合はブラインドにて調整できるよう工夫している。	木材を活かした温かみのあるリビングから、田園の季節の風景を眺めることができる。廊下には、入居者や家族の写真が飾られ、掃除が行き届き、作業動線と換気で清潔な空間が保たれている。入居者が落ち着いた生活ができるようバタバタしないよう心がけている。代表者の孫や飼い犬の存在なども、家庭的な雰囲気を感じさせている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファをもうけ一人で過ごす時間や利用者様同士で思い思い過ごせるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には本人様の思い入れのあるタンスや鏡等を置き、今までの生活習慣との変化が少ないよう工夫し、居心地良く落ち着ける環境づくりを行っている。	タンスや鏡台、椅子など使い慣れた家具を持ち込むことができ、入居者・家族も居室でゆっくりくつろぐことができる。ベッドは入居者の身体状況に合わせて配置されており、快適な生活を過ごせる工夫がなされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	椅子やソファ、ベットなど、一人ひとりの身体機能に応じ対応できるよう、工夫している。		